

<p>課題</p>	<p>① 高齢男性の生活意識（特に妻が不在となった場合の）へのアプローチ</p>	
<p>現状</p>	<p>妻が不在、もしくは自身が高齢になり、知意識不足、ADLの低下等により日常生活に支障をきたす事例が生じている</p>	
<p>課題</p>	<p>(1) 無関心層（その状況になったときにできないことに気づいていない層）への働きかけ (2) 男性だけでなく、妻・娘等への働きかけも必要 (3) 働きかける場所がない（男性の居場所が少ない）</p>	
<p>想定される協議事項</p>	<p>1 既にある社会資源を無関心層に情報をどのように届けられるか。 (1)どこをターゲットとするか（現役世代、リタイア直後、実際に問題が生じている者） (2)(1)で定めた相手に対し、どのようなアプローチが有効か 2 男性が活動できる社会資源をどのように開発するか。</p>	
<p>主な対応状況</p>	<p>・応援ブック作成時における男性の居場所の確認（約〇箇所） ・応援ブックに活動内容が分かるように表示する ・男性のための介護者サポーター養成講座の実施（年1回・5人程度）</p>	
<p>情報の周知手段</p>	<p>・市報、ホームページ、ツイッター ・公民館、集会施設 ・介護福祉課から発送する通知文等に案内を盛り込む等</p>	
<p>男性が活動している社会資源（現状）</p>	<p>・老人クラブ ・シニアSOHO ・シルバー人材センター ・任意団体 等</p>	<p>活動の具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・囲碁、将棋 ・健康マージャン ・アート ・絵画 ・写真 ・カラオケ ・コーラス、合唱 ・ラジオ体操 ・さくら体操 ・気功、太極拳 ・ターゲットバードゴルフ ・料理 ・自然保護 ・各種サロン 等々